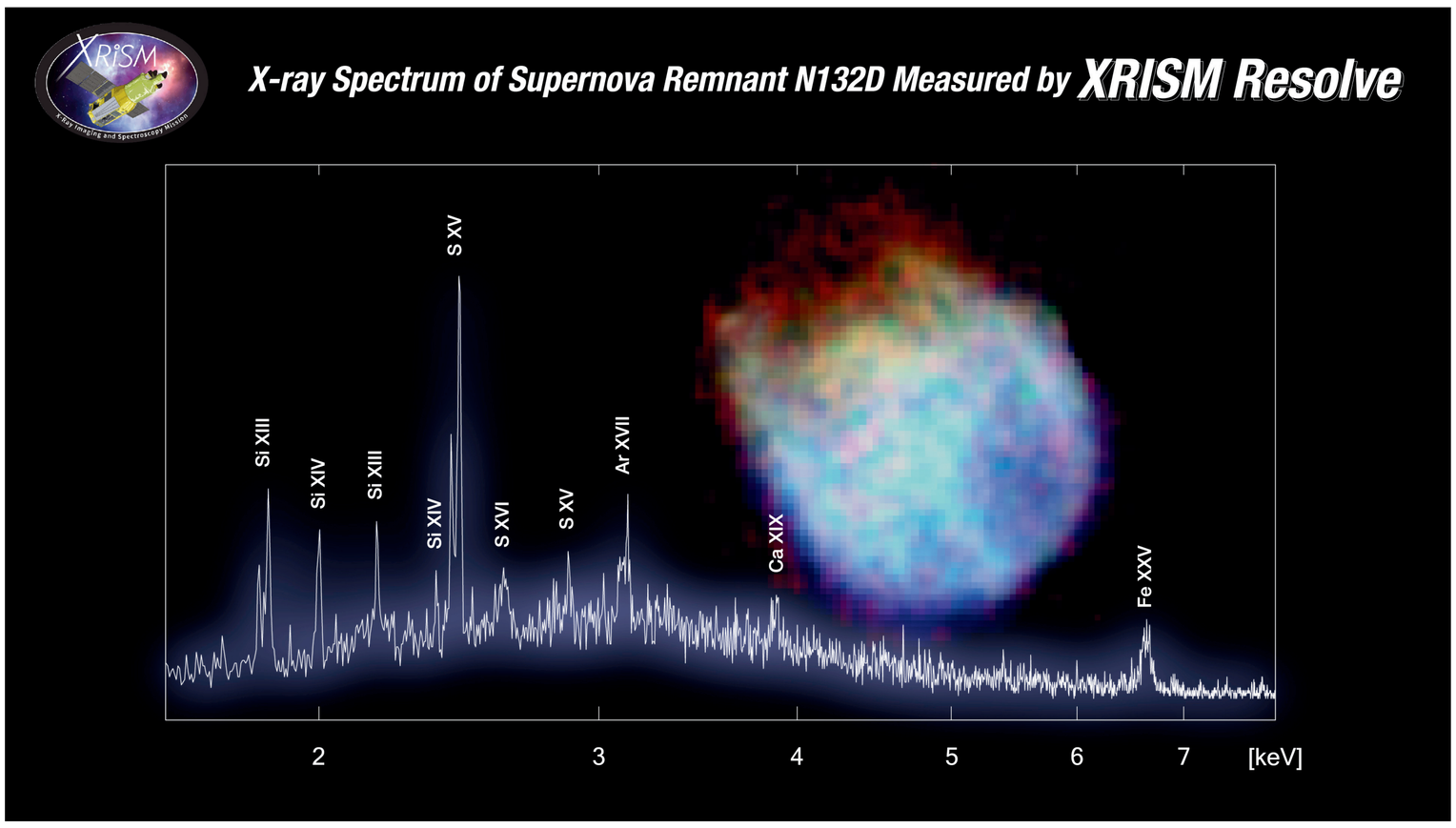
X線分光撮像衛星 XRISM

ホットトピック 2024年7月

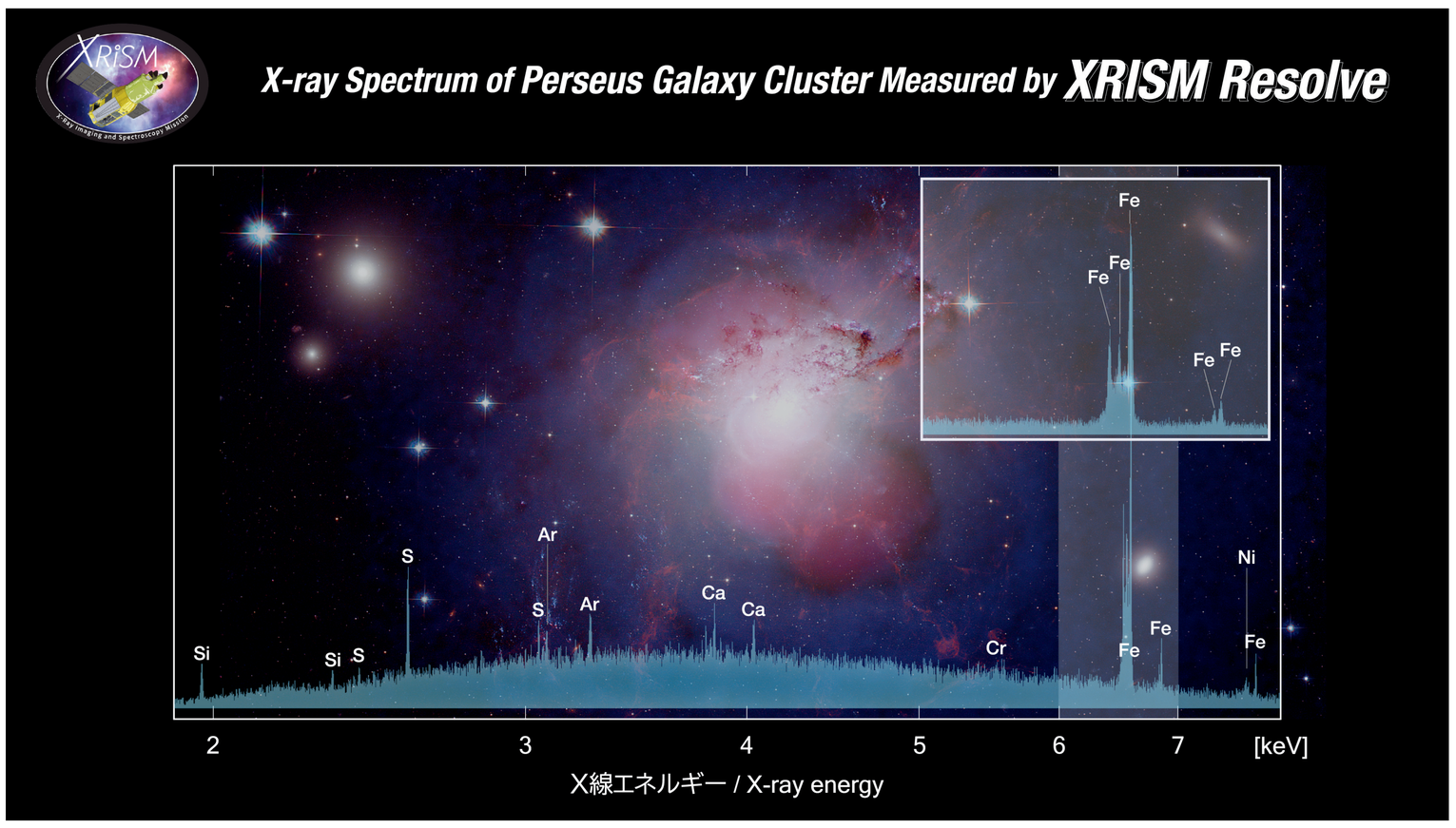
2023年9月7日に打ち上げられたXRISM。観測装置の
機能確認と調整を終え、現在は、科学観測を行っています。



超新星残骸 N132D

大マゼラン雲にある超新星残骸N132Dのスペクトルと X線画像。N132Dの太陽系からの距離は約16万3000光年。

スペクトルには、さまざまな元素が出す特徴的なX線が見えています。こういったスペクトルから元素の種類や量、高温ガスの温度や運動を知ることができます。



JAXA/NASA/CXC*/IoA**/A.Fabian et al./NRAO/VLA/G. Taylor/
ESA/ Hubble Heritage (STScI/AURA)/Univ. of Cambridge

ペルセウス座銀河団

太陽系からの約2億4千万光年の距離にあるペルセウス座銀河団のスペクトル。背景の画像は観測領域付近のX線・可視光・電波の合成画像。

X線スペクトルから、銀河団に満ちている高温ガスの温度や運動を測定できます。そして、銀河団がどのようなプロセスで作られ、今後どのように進化するのかを明らかにできると期待されます。

宇宙航空研究開発機構　X線分光撮像衛星XRISM

XRISM
ウェブサイト